

# 少年センターだより

令和2年11月21日  
発行  
日野町少年センター  
日野町河原1丁目1番地  
TEL/FAX 0748-53-1325  
<http://www.rmc.ne.jp/h.g.s.c/>

## 「コロナ禍における子どものストレスケア」

日野町長 堀江 和博

秋も深まり朝夕はめっきり冷え込むようになりました。冬が駆け足で近づいてきたように感じる毎日ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。日頃はそれぞれのお立場から子ども達のためにご尽力をたまわっておりますこと、心より感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大は私たちの生活に大きな影響を与えました。とりわけ子ども達をとりまく環境変化は顕著です。三カ月及び一斉休校はもろろんですが、学校再開後も部活動や学校行事等の中止、修学旅行等の中止縮小、学習内容や進度の変更、マスク生活など感染対策へのストレス、家庭環境の変化などその影響は計り知れません。

実際に、子どもたちの意識について国立成育医療研究センターが調査したところ、7割近くの子も達が何らかのストレスを抱えていることがわかりました。特に小さな子どももほど、新型コロナウイルスを正しく理解し、環境変化をしっかりと整理できていない可能性があります。では私たち大人は何ができるでしょうか。

調査をおこなった小児科医の先生は「子どももストレスは大人が思う以上に高いことを認識すべき。マスクは表情が見えにくく互いの変化に気付きにくい。その分、子どもたちの声にしっかりと耳を傾けてほしい」と話されています。まず、身近にいる子ども達の表情や態度などを今一度見つめ、不調がないか無理をしていないか、その声をきちんと聴いてあげることが大切だと思います。

この十一月から日野町少年補導委員会の皆さんが、町内各小学校にて「朝のあいさつ運動」を自主的に始められました。朝の声かけから子ども達とコミュニケーションをとる。校門に立ち、子ども達に「おはよう！」と声をかけることだけかもしれませんが、それが子ども達を支えることにきつとつながりませぬ。皆さまの子ども達を想うお取り組みに感謝し、ともに日野町の子も達を守っていききたいと思ひます。



## 11月は「滋賀県子ども・若者育成支援強調月間」

日野の明日を担う子ども・若者が、社会性や自立性を身につけ、心豊かにたくましく成長していくことは、町民全ての願いです。少年非行以外にも、ひきこもり、不登校、いじめ、児童虐待など、さまざまな問題が存在しています。これら問題の解決には、地域全体で支えていくことが大切です。

理解と認識を深め、地域の力で子どもをまもり、育てましょう。



フレンドマートでの店内啓発

## 少年補導功勞者表彰を受賞

日野町少年補導委員の安田均さんが、長年にわたって地域に密着した少年補導活動等を推進され、少年の非行防止と健全育成に尽力された功績が認められ、少年補導功勞者として、滋賀県警察本部長と滋賀県少年補導員会連絡協議会会長から表彰されました。

例年ですと『「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり県民大会』の席上で授賞式がある予定でしたが、新型コロナウイルス感染症により大会が中止になったため10月28日に東近江警察署で筒居署長から伝達されました。

長年の活動に感謝しますとともに今後のますますのご活躍をお願いします。



東近江警察署での伝達式

## 子育て小窓

小さな男の子が、草むらを楽しそうに走っています。しかし、その子は こけて、擦りむいた足は赤くなっています。さて、皆さんはこの男の子に何て声をかけますか？おそらく「痛かったね」「びっくりしたね」など、子どもの辛い気持ちに寄り添った声をかけられると思います。

実はこういった不快な感情をきちっと誰かに認めてもらえる体験が、子どもの脳を健康に発達させていくのです。すると、学校などで嫌なことがあった時に、嫌な気持ちを持ちながらも安心できる人に相談できたり、他者に適切に反応できたりしていきます。逆に、「痛くない」と不快に感じることを否定され続けると、子どもの脳は傷つき、常に闘うモードの脳になっていきます。その結果、突然切れたり、固まったりするようになっていわれています。子どもは小さな大人ではありません。脳も身体も発達途上です。子どもの気持ちを認める声かけを続け、子どもの脳を健康に発達させたいものです。



# 薬物乱用はダメ、ゼツタイ!



～町内の文化祭で少年補導委員が薬物乱用防止の啓発物を展示～

日野町少年補導委員会では、各公民館やわたむきホール虹での文化祭で少年補導委員会が作成した啓発物の展示をしていただきました。例年「氏郷まつり“楽市楽座”」で行っていた薬物乱用防止のための啓発活動等が、今年は新型コロナウイルス感染症のために実施できなかった代わりとして実施しました。また、図書館では薬物や青少年問題についての図書コーナーが設けられました。

## 公民館 わたむきホール虹 図書館 展示



公民館での展示

### 『依存』が起きる薬物乱用 やめられなくなります

◎乱用される薬物の共通の特徴は、何度でも繰り返し使いたくなる「依存」を引き起こす事です。

◎いったん依存になってしまうと「快感を得るため」だけでなく、薬が切れた時に感じるイライラや不安、身体的苦痛から逃れるために薬物を使わざるを得なくなります。



◎こうして、薬物なしではいられない「薬物依存」の悪循環にはまってしまうのです。

ネットでも手に入ってしまうので要注意!



甘い誘いも要注意!



誘われた時は  
ハッキリ・キッパリ  
断ろう!



図書館コーナー

## 朝のあいさつ運動

日野町少年補導委員会では、11月より、各小学校での「朝のあいさつ運動」を始めました。

大人が地域の子どもを知り、また子どもたちにも地域の人を知ってもらい、そしてあいさつのしっかりできる子どもたちに育ててほしいという願いからこの運動が始まりました。

一日を元気よくスタートしてもらいたいと思ひ言葉は「おはようから始まる楽しい学校」。少年補導委員が子どもたちに明るく呼びかけると、早速子ども達から元気な声が返ってきました。



## 麻薬・覚醒剤乱用防止運動実施中

10月1日から11月30日まで



### つぶやき

新型コロナウイルス感染者が全国で多数確認され学校が休校になっていたときの松尾公園での出来事です。多くの子どもたちが密を避けて公園で遊んでいる中で、公園内の駐車場では、高校生と思われる子どもたちがスケボーを楽しみながら技を懸命に練習していました。

何日かたって、公園の駐車場をしてみるとスケボーを楽しんでいた子どもたちがいなくなっていました。私が考えるところ、おそらく誰かから「この場所は駐車場なので危険だからやめなさい」と注意を受けたのではないかと、思われます。

私たち大人は、「正論」という力をかざして心理的に子どもを追いつめ、この場所からいなくなればいいと思いがちですが、追い出された子どもたちは家の前や道路などもっと危険な場所で練習を行うのではないかと思います。怖い危惧しています。スケボーもスポーツです。私たち大人は、子ども達の居場所を見つけてあげることでも大事なことでないでしょうか。たとえば場所の提供とか…。

日野町少年補導委員会 小森 慶一

## ひとりで悩まないでまずは相談を!

少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごとの相談を行っています。本人だけでなく、家族の方の相談も受けています。お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

○電話相談 ○面接相談

○相談時間：月～金 9:00～16:30

日野町少年センター (日野町勤労福祉会館 2階)

電話 0748-53-1325

E-mail [hino.t-syonen.c@rmc.ne.jp](mailto:hino.t-syonen.c@rmc.ne.jp)